



図3. 干潮時, 30日16時34分撮影, この日の干潮時刻11時44分.



図4. 満潮時, 31日6時54分撮影, この日の満潮時刻6時02分.

最後に, 文献と本種の同定についてご教示いただき, 発表を勧めていただいた愛媛大学の吉富博之博士にお礼申し上げる.

引用文献

- 吉富博之・松井英司・佐藤光一・疋田直之, 2000. 日本産セスジダルマガムシ属概説, 甲虫ニュース, (130): 5-11.
 中島 淳・緒方 健, 2004. 福岡県・佐賀県におけるセスジダルマガムシ属4種の採集記録, 甲虫ニュース, (147): 13-14.
 菅谷和希, 2009. セスジダルマガムシ属2種を千葉県海岸部より採集, 月刊むし, (465): 46.

(稲畑憲昭 600-8238 京都市下京区東堀川通木津屋橋下る御方紺屋町 3-206)

【短報】愛媛県面河溪から新種として記載された *Anostirus* 属のコメツキムシ

日本から知られている *Anostirus* 属の種は, ダイミョウコメツキ (*A. daimio*) とツマガヒロヒラタコメツキ (*A. castaneus japonicus*) の2種であるが, 最近, イタリアの Dr. G. Platia が, 愛媛県面河溪から

A. omogoensis と命名した新種を記載した. 体長は11 mm で体幅は3 mm, 体は上翅も含めて黒色で, 上翅の翅底部の第3, 4間室あたりと上翅側縁部の一部などに判然としない黄橙色斑を有し, 肢は黒褐色である. 触

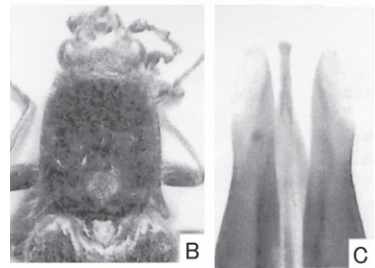
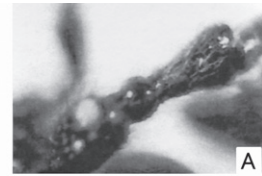


図1. 原記載で示された図の一部: A, 右触角の基部3節; B, 頭部と前胸背板; C, ♂交尾器の末端部(背面).

角は破損しており, 左触角は基部節のみ, 右触角は基部3節のみが残っている個体である(図1A). タイプ標本は1♂, Omogo Valley, Kumakogen town, 8. V. 2005, T. Kurihara & T. Koseki としている. この個体を採集された栗原隆博士によれば, 面河山岳博物館付近のカエデの花上から見出し, チェコの知人にカミキリとの交換用に送った個体で, それが Dr. Platia に渡り, 新種として記載されたようだとのことである. この新種の形態の一部は図示されているが, この属では♂は通常第3節から櫛歯状をしているが, 図1Aでは棍棒状(原記載では triangular)に近い形態をしており, 奇形のように思われる. いずれにしても, 日本からこの属の新種が記載されたことは思いもよらないことである. 原記載とその不鮮明な付図だけでは正確なことは判明しないので, 今後, 同好者の支援を得て, この新種の実体の解明をして行きたいと思う.

末尾に, 本種の採集経緯について御教示をいただいた栃木県立博物館の栗原隆博士, 文献の入手について支援をいただいた大阪市の有本久之氏に心から御礼を申しあげる.

引用文献

- Platia, G., 2011. Description of three new species of click beetles from the Palearctic Region, with new distributional records (Coleoptera, Elateridae). Bol. Soc. Ent. Aragonesa (S. E. A), 49(31/ 12/ 2011): 19-22.

(大平仁夫 444-3511 岡崎市舞木町狐山 6-4)